

**令和 7 年度（2025 年度）第 8 回
宝塚市上下水道事業審議会議事概要**

宝塚市上下水道局

令和 7 年度(2025 年度)第 8 回宝塚市上下水道事業審議会議事概要

[日 時] 令和 7 年 10 月 27 日 (月) 午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分

[場 所] 宝塚市第二庁舎 第 1 会議室

[出席委員] 鋤田 泰子 尾崎 平
足立 泰美 池上 陽子
奥野 敦士 山本 敏晴
関 義友

(敬称略・順不同)

[事務局] 福永 管理者 下野 局長
廣瀬 経営管理部長 中条 施設部長
原 経営企画課長 和泉 浄水課長
宇野 水質検査担当課長 寺脇 給排水設備課長
窪田 下水道課長

1 管理者挨拶

2 資料の確認

会議次第

当日配布資料 :

資料 1 令和 7 年度(2025 年度)第 6 回宝塚市上下水道事業審議会(書面審議)概要

資料 2-1 審議会委員方の意見への対応_水道

資料 2-2 宝塚市水道事業経営戦略(案)

資料 2-3 宝塚市水道事業経営戦略_概要版(案)

資料 3-1 審議会委員方の意見への対応_下水道

資料 3-2 宝塚市下水道事業経営戦略(案)

資料 3-3 宝塚市下水道事業経営戦略_概要版(案)

資料 4-1 宝塚市水道ビジョン 2035_概要版(案)

資料 4-2 宝塚市下水道ビジョン 2035_概要版(案)

3 審議会の成立、傍聴者の確認

事務局：委員総数 10 人中出席委員 7 人のため宝塚市上下水道事業審議会規則第 6 条第 2 項により、本日の審議会は成立いたしました。本日は傍聴者はおられませんので、報告いたします。

4 議題

会 長：それでは、議題Ⅰの「宝塚市水道事業経営戦略(案)」について、事務局説明をお願いします。

事務局：資料「宝塚市水道事業経営戦略(案)」について、説明させていただきます。(以下説明省略)

会 長：それではご意見ありますでしょうか。

委 員：36・37ページに総括原価、資産維持費などに関する記載があるが、内容が複雑でわかりにくさを感じる。今後、実際に料金改定をしていく際には総括原価に基づいて考えていくということだと思うが、あえて記載するのメリットはあるか。

事務局：財政計画を策定する際に、総括原価や資産維持費などの考え方にに基づき料金改定の試算をしましたので、記載が必要だと考えました。内容につきましては工夫しわかりやすく表現するようにしたいと思います。

会 長：料金改定については記載しないほうがいいというご意見でしょうか。

委 員：料金改定を記載しないほうがいいということではなく、料金改定の説明をする際に、損益や資金残高などの数値をもとに説明したほうが、読む人にとってはわかりやすいのかなと思った次第です。総括原価や資産維持費の考え方はかなり専門的な内容ですので、混乱してしまう気がします。必要な情報ではあるかと思うので、掲載ページを巻末に移動するなど、表現を工夫いただけるといいのかなと思います。個人的にはこういった詳細な内容も示していただけるのはありがたいとは思っています。

委 員：資産維持費については、総括原価に3%織り込むように推奨されているが、実際には金額が多くなりすぎるため、そこまで織り込めていない自治体が多いのが現状です。資産維持費を織り込まないということは、施設、設備の維持更新のための貯金をしないということになる。織り込むことは必要だと思うが1%程度が基準となるのではないのでしょうか。

事務局：掲載ページの変更も含めて表現は検討させていただきたいと思います。

委 員：28ページの広域連携についてですが、おおまかなイメージは表現されているのかなと思いますが、具体的なものは何かありますでしょうか。

事務局：広域連携については、各市や県営水道、阪神水道企業団と協議をしているものがありますが、現時点で具体的に記載できるものとしては、28ページに記載している水運用についてとなります。

会 長：宝塚市は今後施設を減らして、受水を増やしていこうとされているかと思いますが、その認識でしょうか。

委 員：水源の在り方、自己水なのか、受水なのかについては、広域連携もふまえて今後さらなる議論が必要だと考えています。受水単価の変更や水質検査基準の厳格化など経営環境の変化が生じる可能性もありますので、その点も踏まえて中間検証時に見直したいと思います。

会 長：次に議題２の「宝塚市下水道事業経営戦略(案)」について、事務局説明をお願いします。

事務局：資料「宝塚市下水道事業経営戦略(案)」について、説明させていただきます。
(以下説明省略)

会 長：それではご意見ありますでしょうか。

委 員：水道、下水道どちらもですが、手元資金の考え方について、運転資金と災害復旧事業費を基準にしているが、設定金額は下水道使用料×４か月分（水道は給水収益×６か月分）になっていることに違和感がある。なぜ運転資金×〇か月分としないのか教えていただきたい。また、料金改定については、あくまで財政計画における試算の結果であって、決定事項ではないということを記載していただきたい。決定事項と捉えられないようにしていただきたい。

事務局：手元資金残高についてのご指摘ですが、仮に今後運転資金は増加し、給水収益が減少していくとした場合、運転資金を基準とすると、手元資金残高の水準は増加するが、収益が減少するため、手元資金を確保するために借金をしないといけない可能性が出てきます。本市としては、運転資金の変動に伴って適正な収益を確保していくことが必要であり、４年ごとの使用料水準の検討により、手元資金残高の水準も検討していくこととしておりますので、36ページに記載している運転資金と下水道使用料は比例していくと考えており、資金を残すために借金をすることは避けたいと考えています。

料金改定については、前提条件を定めたうえで試算した結果、料金改定が必要であり、その点について記載しております。料金改定の必要性についてはしっかりと示す必要があると考えておりますが、表現については検討したいと思います。

管理者：今回、財政計画を策定するなかで、上下水道ともに料金改定をせざるを得ないということをはっきりと表現した形になっておりますが、その点どう感じておられるか教えていただけないでしょうか。

会 長：経験上、ビジョン・経営戦略と料金改定をセットで考えることはなかったように思います。

委 員：改定率まで記載しているものはなかったように思う。おおまかな状況の記載のみに留めていたケースが多いかと思う。

管理者：経営戦略について、国が示しているガイドラインを見ると、10年間の財政計画をたて、収支均衡するようにしないといけない。前回の経営戦略では、収益の減少に対して、努力目標的なものも含めて経営健全化対策に織り込み、費用抑制を目指しました。その結果、経営健全化対策の一部が達成できなかったことが、料金改定の要因にもなった経緯があります。今回はその反省もあり、費用抑制に努めても、なお不足するものについては料金改定が必要であるということをしっかりお示ししたいという思いが強くあり、このような表現とさせていただきました。

委員：令和10年度に料金改定をする試算となっているかと思いますが、もしこの計画通り進めるとするならば、すぐにでも議論を始めないといけないと思いますが、その認識でしょうか。

管理者：今回の審議会で2年間の任期が終了しますが、時期を開けず議論を開始する必要があると考えています。

事務局：料金改定については、ご指摘もありましたので、確定ではないことを明記したいと思います。併せて、4年ごとに料金水準を検討することは明記したいと考えています。

管理者：いただいたご意見をふまえて、誤解、誤読がないように表現を修正したいと思います。

委員：料金改定率を記載するのはインパクトが大きいので、その点表現を再度検討いただければと思います。

委員：一市民としては、今回かなり踏み込んだ数値を示していただけたことはよかったのかなと思っています。また4年ごとの料金見直しについても、今後定期的に料金が見直されていくということが意識できる表現になっていると思います。また表現については、ビジョンと整合いただければと思います。

委員：借入方針の変更について、40年（据置5年）元利均等から30年（据置2年）元金均等へ変更するとありますが、これは地方公共団体金融機構から推奨されているのでしょうか。またこの変更は財政計画に反映しているのでしょうか。

事務局：推奨されているわけではありませんが、過去低金利の時代から現在大きく金利が上昇しておりますので、費用を抑制するため、考え方を変えた次第です。また財政計画へは反映しております。

事務局：据置期間については各市状況が異なるかと思いますが、本来減価償却とともに償還していくことが基本かと思っています。過去低金利の時代には借入期間を長くかつ据置期間も5年としておりましたが、据置期間によっても金利が変わりますので、今回2年へと方針を変更しております。

委員：料金改定については、記載しないほうがいいのではないかと思います。財政計画に記載されている数値については、インパクトが強いので、市民としてはハレーションを起こしてしまう可能性がある。しかしながら財政計画にあるように大変厳しい財政状況であることは間違いないと思うので、議会を含めて説明していく必要はあると思う。また近隣市との比較も気になることです。

委員：近隣市との比較はどうでしょうか。

事務局：水道料金の料金改定後の令和7年度時点で、近隣7市では2番目に高い水準になっております。令和10年度に財政計画通り改定し、他市が現行のままとすると、1番高くなります。また、現状宝塚市のみが赤字であり、近隣市は経常収支比率が105～110%、本市は97%となっております。施設数や市域の違いなどもあり、単

純比較は難しいと考えております。

委員：40年以上料金改定をしてこなかったというのは、過去のやり方、運営がよくなかったことを示していると思う。また情報については可能な限り公表し、ハレーションを起こす内容もあるかもしれないが、その点も含めて市民と合意形成を図っていく必要があると思う。本来、ビジョンにはカネの話ではなく、ヒト、モノを中心とした内容を書くべきだと思いますが、現状としてカネの話を書かざるをえない財政状況だと思います。また市としても情報公開や説明などの経験をかさねて、市民との合意形成をはかりながら事業を運営していくことが重要だと考えます。料金改定においても同様です。

委員：これから時をおかずして料金改定の議論が始まるのであれば、経営戦略に改定率までの記載は不要かなと考えます。

事務局：料金改定の記載については、本日いただいた意見をふまえ再度検討したいと思います。

会長：次に「その他」について事務局からお願いいたします。

事務局：資料「宝塚市水道ビジョン 2035_概要版(案)」及び「宝塚市下水道ビジョン 2035_概要版(案)」について、説明させていただきます。(以下説明省略)

会長：それではご意見ありますでしょうか。

会長：全体的に文字が多い印象です。ビジョンの概要版は課題を書くというより、10年後にはどうなっているのかを表現するのがいいかと思う。また年号については和暦西暦が併記されていて見にくいように感じるので、その点も工夫していただけるといいのかなと思う。

事務局：現状、ビジョンの内容に沿って抽出した形になっておりますので、ご意見踏まえて修正したいと思います。

委員：見た感じとして単なるビジョンの要約資料だなという印象です。アピールしたいものに絞って表現してもいいのではないかと思います。

会長：ほかにご意見なければ、本日の議題は以上となります。

事務局：本日の審議会はこれで終了させていただきます。ありがとうございました。

また今回の審議会をもって2年間の任期が終了となります。様々のご意見ありがとうございました。

管理者：ビジョンと経営戦略の諮問をさせていただいてから、今回に至るまで、13回という多くの審議会を実施させていただきました。多用のなか参加いただき、またご意見をいただき、なんとかビジョンと経営戦略も形になりました。引き続き次期審議会の委員として参加いただける方もいらっしゃると思いますが、2年間誠にありがとうございました。